



三愛学園

児童養護施設さんあい

一時保護施設所

三愛子ひつじ寮

社会福祉法人 三愛学園

〒369-0212 埼玉県深谷市櫛挽 15-2

Tel 048-585-0605 Fax048-585-0562

Mail san-ai@isis.ocn.ne.jp

URL san-ai-jidouyugo.org



「すべてのことは、許されている。しかし、すべてのことが益になるわけではない。」(聖書)

理事長 高瀬一使徒



キリスト教には、生活上の細かい規定はありません。むしろ「すべてのことは、許されている。」と、ある個所では言っています。同時に「しかし、すべてのことが益になるわけではない。」とも教えています。

神は何でも言うことを聞くロボットではなく自由意志をもつ者として人を創造してくださいました。そして創造主なる神はだれよりも私たちの幸せを願っています。それを考えると子どもの自由意思を尊重することは養育の現場では必須だということがわかります。また自由に意志を表明することは子どもの権利でもあります。一方すべてのことが子に益になるとは限りません。子どもの意思だからと安心・安全が保てないことを黙認しては子どもの幸せを考えているとは言えませんし、養育者の義務を果たしているとも言えません。子育ての日常では子どもの権利と養育者の義務は常に綱引き状態にあるといえます。例えば、子どもの意思だからと全く野菜を食べずにお菓子ばかり食べているのを親は黙認できません。それが原因で健康を害することを知っているからです。それでは子どもを幸せには導かないと考え、あえて嫌いな野菜でも食べさせるのです。でもなるべく子どもが食べやすいように工夫して料理することが必要です。この工夫することが養育の専門性或いは醍醐味ではないでしょうか。勉強や進路、友人・異性関係、金銭的問題等 子どもの自由意思と親の義務が真っ向からぶつかり合う場面が養育の現場では多々あります。お互い感情的になることもありますし、関係がこじれることもあります。でもどんな時でも子どもの意思を尊重しながら親の義務を果たせるよう、十分な工夫や対話を放棄してはいけません。今は子どもが納得しなくとも時が立てば腑に落ちることがあります。逆もしかり、今は親が納得しなくとも子どもの選択が正しかったと理解できるときもあります。兎に角、子どもの自由意志に真摯に向き合うことが大切だと思います。

自立とは依存のネットワークを広げること

施設長 平本 実



障害分野では障害を医学的に治療する「リハビリテーション」を完遂することが自立だとされてきました。これに対して、障害があっても暮らしやすいように社会の仕組みを変えたり、障害を持つ人がサービスや機器類を上手に使いやすくなるのが自立であるという考え方があります。

実際、障害のあるなしにかかわらず、人間はみな様々な他者やモノに依存をして生活をしています。安定した暮らしをする人は、それらの使い分けが上手な人といえます。自立とは、なんでも自分一人で行えるようになることを指すのではなく、できないことはできる他者やモノに頼れる=依存できるネットワークをたくさん持つことだということです。

社会の中で多くの人を感じる生きづらさの背景には、この依存できるネットワークがみつげづらかったり、みつげてもそれを上手に利用できなかつたりすることがあります。職員達は皆、子ども達が卒園するまでに、そのネットワークを上手に構築できるよう、対人関係の基礎となるコミュニケーション能力を高め、サービスを見つけ、利用するのに必要な知識や技術が身に着けられるようにと支援をしています。

新型コロナウイルスの感染症5類への移行を受けて6月にさんあい祭りを開催し、同日に行った同窓会には多くの卒園生が参加してくれたことを前号でご報告しました。職員にとっては、そのように卒園した子どもたちが社会の中で友人や同僚、地域の方たちや新しい家族とのネットワークを作って生きていく姿を見られることが、何よりの喜びです。そして、それらがうまくいかないときに頼れるネットワークのひとつでもありたいと願っています。

さんあいの

特別部屋外出で茨城県に行きました!!
アクアワールド大洗水族館でキーワードラリーに夢中になったり、日立かみね公園のレジャーランドで数えきれない程ジェットコースターに乗ったりと沢山の思い出ができました♪特に宿泊先での BBQ は火起こしが難しく、職員にも良い経験となりました(笑)。子ども達も普段の生活とは違う外での食事を楽しみ、会話も弾んでいました(^_^)楽しい1泊2日の旅行で、子どもと職員の仲もより一層深まりました!



いちよう



ぽぷら



今年の夏は那須旅行へ行ってきました! 那須どうぶつ王国や那須ハイランドパークでは賑やかな声が沢山聞こえていました。蒸気機関車レストランでは機関車が料理を運んでくれて、幼児さんは目を輝かせてニコリ。ジェラートの食べ放題では、中高生がトッピングのラスクを山盛りにして満面の笑みでした。バーベキューでは、子ども達が火起こしやお肉や野菜を焼くのを手伝ってくれ、頼もしい一面を見せてくれました。夜はお菓子を食べながらカードゲームをしたり、みんなで語ったりと楽しい時間を過ごしました♪

ねむのきは福島へ旅行に行きました! 1日目はスパリゾート・ハワイアンズに行き、プールで大はしゃぎ! 大きなウォータースライダーにも乗り、大興奮の子どもたちでした! 夜は旅館に泊まり、出迎えてくれた女将さんに感激の一同。浴衣を着て過ごす夜はとても良い経験ができました。2日目はリカちゃんキャスルで、ドレスを着てリカちゃんに変身! 子どもたちの可愛さに職員は癒されました♡退所を控えていた児童もいましたが、無事子ども職員全員で旅行に行くことができました。これからも沢山の思い出を増やしていきたいです。

ねむのき



夏休み

かしのき



かしのきは特別部屋外出で福島県の猪苗代湖周辺に行きました。猪苗代湖での湖水浴やコテージの宿泊を体験しました。福島県までの道のりはなかなか遠く「まだ〜？」という声が何度も聞こえていましたが、猪苗代湖に着くと大はしゃぎ！各々浮いたり潜ったりして、出る頃には真っ黒に焼けるほど楽しんでいました。コテージではBBQをして、外泊が初めての子もいたので大興奮でした。いつもより少しだけ夜更かした事も、みんなで寝た事も楽しい思い出になりました。

今年の特別部屋外出は山梨県に行ってきました！最初に忍びの里に行き、忍者ショーを観ました。小学生たちは観終わると忍者になりきり楽しそうでした。宿泊したコテージは見晴らしが良く、目の前には大きな富士山が見えました。雪が積もっていない富士山はあまり見たことが無いため、子どもたちも驚いていました。

2日目はリニア見学センターへ行きました。リニアの試走は残念ながら見ることはできませんでしたが、模型や模擬映像を観ることができ、子ども達は存分に楽しむことができました。2日間とても楽しく過ごすことができました！



もみのき

オリーブ



8月下旬、オリーブと男の子、女の子合同で川遊びとBBQをしました。川遊びは近隣の川にかけました。豊かな自然に囲まれ、水も冷たく気持ちよかったです。飛込みや蟹探しもして、子どもたちは満足そうでした。その後、さんあいに戻り、グラウンドでBBQを楽しみました。食材の買い出しから、焼くことまで子どもたちに任せることで、普段とは違う経験ができました。男の子と女の子合同での外出だったため、兄妹で入所している子たちも一緒に時間を楽しむことができ、夏らしい思い出ができました！

7月、タイ・チェンマイ市にある児童養護施設「バーンロムサイ」を訪問しました。この施設は HIV に母子感染した孤児の生活施設として名取美和さんという日本人によって 1999 年に設立されました。当時は不治の病として感染者は社会や家族から疎まれ、病状が悪化する中、誰からも看取られないまま亡くなる子が多かったようです。そんな子どもたちのお母さんになるべく何も無いところから施設を立ち上げたそうです。そして入所した多くの子どもたちを支え最後まで看取りました。現在では感染児でも、薬により病気の発症を抑えることができ健康な人と同じ社会生活を送ることができます。



定員 30 名の園舎は森の中にあります。

タイのこのような民間施設では行政の委託により子どもを受け入れています。公的な財政的支援はありません。基本的に施設は寄付金、自立事業、ボランティア等によって自力で運営されています。「バーンロムサイ」も寄付金の他に自立事業として旅行者の宿泊施設や女性服を製造し日本で販売して運営費を捻出しています。コロナ禍では収入が激減し入所児童を減らさざるを得ない時期もありましたが、現在は回復しているそうです。名取さんの今までのご苦勞は並大抵ではなかったと推察します。その深いご慈愛とご苦勞に尊敬の念を抱くと同時に、私自身の心にチャレンジを与えられた思いでした。



これらの建物すべて自己資金で建てられました。



子どもたちの課題は日本と同じく、卒園後の自立ということでした。



現在は娘の美穂さんが中心となって施設の運営を支えています。さんあいから創立記念祭のバザー等の収益金の一部と文房具を寄付させていただきました。

親善球技大会

8月21日、埼玉県内の児童養護施設対抗の親善球技大会が開催され、さんあいも参加しました。例年、種目はソフトボールでしたが、今年は「ドッチビー」が採用されました。なじみがない種目ではありますが、さんあいでは昨年度に子どもたちと職員で体験をしていたので、ルールや戦術はすぐに理解できました。熱中症対策もあり外での事前練習は1度しかできませんでしたが、限られた練習場所・時間の中でできることをして備えました。本番当日、小学生は予選から力を発揮し、1勝1敗で予選突破できました。決勝トーナメントでは、追い上げるも同点。



最後は大会ルールのじゃんけんで決着。惜敗となってしまいました。キャプテンを中心とした頑張りに拍手が送られていました。中高生は、人数不足という逆境を撥ね退け1勝をする事ができました。最終的な結果は1勝1敗。こちらも大会ルールにより人数差で予選敗退となってしまいました。与えられた条件の中で全員が団結して戦いました。残念ながら入賞を逃したさんあいですが、試合中も出場していない子どもたちが必死に応援する姿が評価され、表彰式では全施設中1施設のみに与えられる「チームワーク賞」が贈られました。終了後はバイキング形式の焼き肉屋で慰勞会を実施。全力を出し切った後の食べ放題に大喜びの子どもたち。入賞は逃しましたが、子どもたちの頑張りに職員も感動を覚える1日となりました！

幼児グループワーク

色水鉄砲でオリジナルTシャツを作ろう！

9月3日に幼児全員でグループワークを実施しました。全員白いTシャツに着替え、色水を入れた水鉄砲でお互いのTシャツに水を掛け合うことでオリジナルTシャツを作成しました。当日は、顔や髪の毛の色水が付着しないようヘアキャップやフェイスガードを着用。初めは遠慮がちに掛け合っていました。時間がたつにつれ遠慮がなくなり、子ども同士、追いかけたり、職員にも掛けて楽しみました。普段はできない色水の掛け合いという非日常の体験となりました。

色水は赤や青、紫など様々な色があり、当たり方によって全く違ったデザインとなり、1人1人個性のあるTシャツができ上がりました。でき上がったTシャツは、普段着として着用してくれている子どもも多く、それぞれが気に入ったTシャツを作成する特別感を味わいました。



小学生グループワーク

デイキャンプで昔体験！

9月23日、小学生全員でデイキャンプを行いました。内容は、昔体験という事で、火おこし体験をし、その火でカレーを作り、竹を割って作ったオリジナル食器でカレーを食べるといったものです。キャンプ場に到着すると、早速、食器作りを開始！班に分かれて子どもも職員もみんなで協力してノコギリやナタを使い竹の加工を行いました。カレー作りは女の子が特に頑張ってくれました。低学年の子ども達も負けじと具材切りに奮闘。火おこしでは昔ながらの、まいぎり式火おこし器や、ファイヤスターターを使って火種を作りました。火をつけられた班は少なかったのですが、最後まで諦めることなく頑張りを続ける姿が見られました。当日、心配された天候は何とか最後まで守られ、自分で作った竹の器で美味しいカレーを食べることができ、あきらめないでやり遂げる大切さを実感することができました。



スイーツビュッフェ

夏休み終盤の8月26日、食育タスクによる「スイーツビュッフェ」を開催しました。夏休みに宿題を頑張ったご褒美と、二学期も頑張ろう！という思いを込めて計画しました。スイーツを作るのは、小学生高学年・中高生を対象に、興味がある子どもたちです。自分の作りたいスイーツを前日から仕込み、準備をして作り上げました。普段からお手伝いをしている子ども、料理やお菓子作りの経験が少ない子ども、1人ひとりが役割をもって取り組み、ショートケーキやガトーショコラ、ゼリー等たくさんのスイーツができあがりしました。

スイーツビュッフェ当日、招いた他の子ども達や職員が、大好きなスイーツをお腹いっぱい食べて嬉しそう姿を見て、準備をした子どもたちも職員も達成感を味わうことができました。

職員募集のご案内

児童養護施設さんあい及び自立援助ホーム子ひつじ寮では令和6年4月から共に働いて下さる職員を募集しています。また、パート職員は随時募集しています。

仕事内容：子どもの生活支援全般

資格：保育士および福祉学科、教育学科、心理学科、社会学科で学位を修めた方。

（特に上記に当てはまる資格が無い場合でもご相談ください。）

（※）お問い合わせ等の連絡先は、

電話 048-585-0605

又はメールで san-ai@isis.ocn.ne.jp

熱中症警戒アラート発令！

毎日のように「熱中症で搬送者が〇名」とテレビで騒がれ、時には重症者や死亡者などの情報もあった夏。「楽しい夏休み」は、「危険な夏休み」でもありました。そこで、今年は3段階の熱中症警戒アラートを作り、赤・オレンジのパネルを作成しました。毎日熱中症予防サイトを確認してパネルを中庭に掲示、外遊びを制限することにしました。このことにより、重篤な体調不良者を出すことも無く、夏が終わりました。

「熱中症」というものを通して「自分の身を守る」ということを考えてもらう良い機会になったのでは？と感じております。来年はもう少し涼しい夏が来ますように。
(青木看)

ガーデンパーティー

夏休み初日の夕方、ガーデンパーティーが開催されました。中庭に集まり、まずは長い夏休みを安全に楽しく過ごせるようにお話を聞きました。いつもとは違う浴衣や甚平姿に、少し恥ずかしそうにしながらもお互いに褒め合っている子どもたちの姿が印象的でした。久しぶりに本物のスイカで行われたスイカ割り、初めて本物のスイカを割る児童も多く、一番の盛り上がりを見せたのでないかと思えます。最後は打ち上げ花火に歓声を上げ、最高の夏休みのスタートをきることができました。
(新海)

いちじょうの広場



男の子オリーブ

9月末時点で、小学生を中心に6名の児童が入所しています。毎日の生活の中で生活習慣を身に付けていくことは児童にとって容易ではないですが、職員を含めて集団生活の中でお互いを認め合い、譲り合い、信じあって学習・遊び・食事等を行うことができています。色々なお友達がいることをお互いが理解することで見えてくる新たな景色があるようです。元気が良すぎてふざけ過ぎることもあります。男の子オリーブは今日も元気にのびのびと過ごしています。
(釜谷)

アニマル・クラブ

6月にペットショップに行きました。子どもたちはポニーちゃんやトトちゃんの好きなおやつを、迷いながら一生懸命選びました。支払いは慣れないセルフレジ。しっかり支払いを済ませて満足する姿に、良い経験ができたと思いました。店に向かう車中では誰がポニーちゃんやトトちゃんを抱っこするか、リードを持つか等を皆で話し合いました。考えて譲り合いをすることで思いやりの心も育めました。3グループに分かれて行動したドッグランでは、ポニーちゃん、トトちゃんに負けじと楽しそうに走り回る子ども達が印象的でした。
(菅)

「第1回サンプル楽器提供」当選！

島村楽器イオンモール太田店様からエレキギターをご寄贈いただきました！8月10日には、本園にて贈呈式&演奏レクチャーをにぎやかに開催し利用者3名を含む6名が参加。「壊しちゃうそう」と恐る恐るギターに触る利用者や、すぐにコードを覚え、ギターに目覚めた利用者もいました。「うまく弦が抑えられない！」「いい音がでた！」「かっこいい！」と会話も弾み、貴重な体験の場となりました。その後も練習に励む利用者の姿もあり、素敵な音色が子ひつじ寮に響いています。芸術の秋到来。子どもたちと1曲弾けるようになるのが目標です。『演奏や音楽を楽しむことで、たくさんの笑顔が生まれ、生活がより豊かになりますように』とメッセージを送ってくださった島村楽器様、貴重な機会をいただきありがとうございました！
(浅野)



いつもあたたかいご支援ありがとうございます。
ご寄付は右記の口座をお願いします。
お名前をお入れください

埼玉りそな銀行 岡部支店 (普) 0058888
7) サアガケソ リゾ ちょうかた入 込

編集後記

顔を合わると「暑いね・・・」と挨拶のように繰り返していたこの夏。いつ終わるのかと案じていた猛暑も、9月下旬になり、やっと少しずつ「懐かしい」感じになってきました。過ごしやすい季節に喜んでいるのは人間だけではなく「蚊」も同様で、越冬する卵を産むために必死になって血を吸う時期だそうです。気温の上昇と共に最近では11月下旬まで長生きする蚊もいるようです。かゆいだけではなく、病気の媒介も心配な蚊。人間も動物もまだまだ注意が必要なようです。
(広報タスクチーム一同)